

物流ニッポン2016年1月11日

# 脈拍変化を自動通知

## 健康管理システム販売

### トライプロ

トライプロ(高木宏昌社長、東京都世田谷区)は、ウェアラブルセンサーで測定した脈拍の変化や睡眠の状態を、位置情報と共にリアルタイムで自動通知する動態・健康管理システム「スマ・ロケ Health care(ヘルスケア)」の販売を8日から開始した。(田中信也)

事業用自動車の重大事故に起因する事故が増加しての発生件数が減少する一方、おり、国土交通省はIT(情報)で、ドライバーの健康状態(報技術)やウェアラブルセンサーの脈拍変化に応じて緊急通知機能も備える(専用スマホの操作画面)



ンサーといった新技術を活用した健康管理・支援システムの導入を推進している。こうした状況を受け、トラック、バス、タクシーの安全運行を支援するトライプロのスマ

の事業者が簡単かつ安価に活用できるシステムとして開発した。

## 運動量など履歴確認

スマートフォン(スマホ)連動に貢献する。動態管理システム「スマ・ロケ」と、セイコーエプソンの腕時計型の脈拍計機能付き活動量計・ウェアラブルセンサー「PULSE NSE PS100BL」を連動。ドライバーの脈拍を計測し、あらかじめ設定した数値を超えた場合、自動的に運行管理者のパソコンなどに即時に通知する。社外にいるドライバーの脈拍をリアルタイムに把握することで、「客観的なデータを基に安全運行を支援できる」(高木社長)

また、日々の睡眠状態(総睡眠時間、眠りの深さ)や運動量、歩数などの情報をデータベースに自動保存。適宜ダウンロードすることで、履歴や推移を確認でき、ドライバーの健康管理推進に拡大・拡張していく。

型動態管理システムでは、ドライバーが無線通信「ブルートゥース」経由で「ブルードリヴァー」と連動させることで、伝票を読み込ませて荷物を追跡することも可能だ。

導入コストは専用のスマホとウェアラブルセンサーを含め1台当たり3万5千円、対応ソフトと通信環境の整備が2万円。ランニングコストは1台当たり月額1980円から。これに加え、1管理拠点当たり9800円掛かる。

ヘルスケア機能については、今後も専門家や関連機器メーカーなどと連携し、データの更なる解析、新たなアルゴリズムの構築で予測警告ができるシステムに